

ダニエル・カールの

消防団 たずねあるき

第5回

宮崎県宮崎市

はじめに

今回は「消防団たずねあるき」では、初めての九州です。宮崎県の宮崎市にうかがいました。ご存知のように宮崎県の県庁所在地で県内の主な施設がここに集まっています。

宮崎市といえば「南国宮崎」とよく言われるように温暖な気候で、プロ野球チームの春のキャンプ地としても有名ですね。また、青島など

の有名な観光地もあり、かつては新婚旅行のメッカとして有名だったそうです。地理的には宮崎平野の南端に位置し、中央を大淀川が流れ日向灘に注いでいます。

市の中心部は都市の景観ですが、郊外では野菜の栽培や漁業が盛んだということで、いろいろな食材に恵まれています。これに、宮崎牛、宮崎地鶏などが加わり、今や全国で大人気の焼酎もあり、デザートにはすっかり有名になった



前列左から谷口消防局長 尾中団長 ダニエル 松山消防局次長
後列左から高橋副団長 安藤団員 中野団員 永峯部長

消防団たずねあるき

宮崎マンゴーがありまして、一大グルメタウンでもあるわけです。

それから、宮崎市は空港からのアクセスがとても良く、空港から宮崎駅までは電車で10分以内です。これは、交通網の発達している日本の中でも、指折りの便利さだと思います。

寒さの残る3月初旬の東京を後にして、宮崎駅に降り立った取材の当日は、曇り空で途中から雨が降り出す天気だったのですが、そこは南国宮崎だけあって暖かく、年間を通してすごしやすいところだろうなと思いました。それでも、台風シーズンなどには、消防団員の皆さんは大変なご苦労がおありになることでしょう。さてさて、今日は、どんなお話がうかがえるのでしょうか。

宮崎市の消防

宮崎市の消防組織について簡単に紹介します。

常備消防は、1消防局、2消防署で、分署や出張所が7つあり、消防職員335人からなっています。

消防団は、1本部、22分団で、消防団員数は実に員数、2,266人を数えます。

ダニエル 暖かいですね。

尾中団長 そうですね。今日は宮崎でも平年より暖かいと思います。

ダニエル オラも宮崎には何回かお邪魔していて、椰子の木があつたりするところからは、生まれ故郷のカリフォルニアを思い出します。

尾中団長 日本では珍しい風景でしょうね。

ダニエル それから宮崎といえば、以前、テレビの仕事で県内を回ったことがありまして、酒蔵でいただいた宮崎の焼酎がおいしくて、すっかりファンになってしまいました。

尾中団長 山形にもおいしいお酒がたくさんあるじゃありませんか。

ダニエル やはり、その土地で作られたものをその土地で飲むから、さらにおいしいのでしょう。山形では山形の地酒が宮崎では宮崎の焼酎が一番おいしいです。

そういえば、宮崎のマンゴーと山形のサクラソボの詰め合わせを見たことがあります。

尾中団長 両県が協力しようということで商品化されたようですね。

ダニエル ということで、本日の取材へのご協力もよろしくお願いします。

宮崎市消防団

宮崎というと、明るい、暖かいというイメージがあります。そんな町の消防団についてお話をうかがってみます。また、2千を超える団員を擁する大きな消防団のトップである消防団長さんは、いろいろと大変だと思いますが、そのあたりのことも含めてお話をうかがいます。

ダニエル 宮崎市消防団について教えてください。

尾中団長 1本部、22分団で、現在2,266名の団員がおります。

ダニエル ずいぶん規模が大きい消防団ですね。

尾中団長 はい。県内では群を抜いて団員

消防団たずねあるき

数の多い消防団です。

ダニエル 団員さんがどんどん増えているのですか。

尾中団長 市町村合併により団員が増えた形です。この3月にも合併を控えています。

ダニエル 市町村合併によって消防団を合併する際に何か問題はありませんでしたか。

高橋副団長 市町村合併後も、一定期間は連合消防団制にしていました。その間にいろいろなことを話し合い、意思の疎通を図ることができました。

尾中団長 多少考え方の違いがあっても、お互いに消防団員として「地域を守る」という同じ目的のために活動していますから、話し合うことで理解しあうことができました。

ダニエル そうですか。でも、2千人以上もいる消防団をまとめて行くのは大変ではないですか。

尾中団長 それなりに苦労はありますが、各分団の分団長がそれぞれの分団をよくまとめてくれていますので順調です。

今後は、若年者の入団を促進していかなければならないと思っています。

ダニエル 平均年齢はどれくらいですか。

尾中団長 37.4歳です。

ダニエル どのような職業の方が多いですか。

尾中団長 これは全国的な傾向だと思えますが、サラリーマンが多いです。全体の60%以上を占めています。

ダニエル 主にどんな活動をしているのですか。

尾中団長 災害時の活動としては、大きく分けて「火災に対する活動」、「地震・津波に対する活動」、「水災等に対する活動」があります。消防団員がこれらの災害現場に出動する際には、あらかじめ定められている出動計画に基づいて出動しています。

平常時の活動としては、防火広報や応急手当の知識と技術の普及などがあります。また、災害に備えての訓練を消防職員と連携して行うなど、地域防災のリーダーとして活動しています。

ダニエル ところで、消防基金の公務災害防止研修を継続して実施されているそうですね。

尾中団長 はい、平成15年度から毎年「S-KYT研修」を実施しており、この研修に取り組んでから7年が経ちました。直近では、平成22年2月21日に実施しています。

ダニエル どのような経緯があって、研修を実施されたのですか。

尾中団長 消防団員の公務災害を防止する



指差唱和

消防団たずねあるき

ためには、活動現場で安全を確保することが重要だと考えていました。そして、そのための研修を消防基金が推進しておられると知り、当市の消防団でもやってみようということで実施に至りました。

S-KYT研修では、消防基金のS-KYT指導員の方を講師に迎え、S-KYTの手法を通して安全に活動するために必要なことをご指導いただいております。

ダニエル 7年間も続けられているということは、この研修の良さを感じてらっしゃるということですよ。

尾中団長 そうです。この研修の良い所は、ただ座って講師のお話を聞くばかりではなく、体を動かす実技があることです。また、受講する団員が自分たちで考えるカリキュラムとなっており、飽きることなく研修を受けられます。

ダニエル 研修の効果は出ていますか。

尾中団長 ここに来て出てきました。以前

は公務災害が年間7～8件ほどあったのですが、平成20年度は2件、平成21年度は1件の発生に抑えることができました。

ダニエル ゼロ災害まであと一歩ですね。

尾中団長 はい、平成22年度には、ぜひ、「公務災害ゼロ」を達成したいと思います。そのためにも、S-KYT研修を始めとする公務災害防止研修に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

ダニエル 目にみえる成果が上がっているということは、研修を行う上で大いに励みになりますよね。

では、実際に研修を受けられた方にうかがってみましょう。研修を受けられていかがでしたか。

永峯部長 今まで受けた研修や訓練とは視点の違うもので、とても新鮮でしたし、安全に活動することの重要性を再確認することができました。具体的には、ホース延長など消防活動をしているイラストを見て、その作業にどんな危険が潜んでいるかといったことをグループごとに話し合い、一番重要な危険のポイントを見つけるという研修でした。

ダニエル 自分自身が安全に活動するためには重要な研修ですよ。

高橋副団長 自分自身もそうですが、部長であれば部下の団員がいます。現場に出動すると誰しも無我夢中で活動しがちですが、活動に潜んでいる危険を感じ、それを回避するにはどのようなことに気をつけるべきかを部下に教えることが重要なのです。そのための研修がこのS-KYT研修だと思います。

ダニエル とても大事なことですよ。火災などの危険な状態の中で、どんな動き方が一



S-KYT研修状況

消防団たずねあるき

番安全なのかということは、あらかじめ考えておくべきですね。それを学んだということですね。

永峯部長 そうですね。副団長のお話にありましたが、部長として部下の団員の安全を確保しなければならないということを再認識することができました。ですから、この研修は今後も続けていくべきだと思います。

ダニエル 消防基金では、公務災害防止研修事業をさらに充実させていく方針だそうですので、これからも、どんどん研修を実施してください。皆さんの話をうかがって、なんだかオラもこの研修を受けたくなってきました。

地域の方の消防団に対する見方は、昔と比べて変化がありますか。

尾中団長 各分団長を通して、地域の方々とはコミュニケーションが良くとれています。かつては、消防団というとお酒を飲むことが多いというような見方をされていましたが、最近はそういう機会も減り、より理解されるようになってきていると思います。

高橋副団長 市民の見方に影響を与えたひとつとして、平成17年に台風のために広い範囲で水害が発生し、消防団が救助活動や不眠不休で警戒に当たるなど、いろいろ活動を展開したことがあります。その姿がテレビなどで紹介されたこともあって、消防団の重要性がより強く認識されたと思います。また、この活動の功績により国土交通大臣表彰をいただきました。

ダニエル 大活躍でしたね。

尾中団長 何もないことが一番ですけどね。

ダニエル こちらの消防団には音楽隊があるそうですね。

尾中団長 消防団の音楽隊があるのは九州では宮崎市だけです。平成10年10月に結成しまして、現在、50名の隊員がおります。高橋副団長は音楽隊長を兼務しています。

ダニエル それはお忙しいですね。音楽隊結成の経緯について教えてください。

高橋副団長 平成8年頃から消防音楽隊を創ろうという話が出ていました。当初、消防職員で結成しようとしたのですが、人員的に無理があり、また、音楽隊専属の職員を雇うには予算に余裕がありませんでした。そんな時、消防団局から「消防団で音楽隊を結成したら」という案が出され、消防団本部の団幹部が消防局と話し合いながら結成に向けて取り組みました。

ダニエル いいアイデアですね。消防団のPRとしても有効ですね。

高橋副団長 当時私は、副分団長で消防団本部の所属ではなかったのですが、音楽の経験が少しあったので、音楽隊結成のための検討に加わっておりました。横浜や名古屋の消防音楽隊の視察なども行って検討した結果、楽器の演奏経験のある人を募って消防団音楽隊を結成することになりました。

結成に当たっては、音楽隊であっても「自分たちは消防団員だ」という意識のもとで活動していかなければならないので、消防団の規律訓練などを採り入れ、消防団の使命である「地域を守る」ということを意識しながら、そのために活動している消防団員のPRや防火啓発活動を音楽を通して行うことにしました。私たち消防団音楽隊は、市民に「聴かせる」ではなく「聴いていただく」を心がけて活動しています。

ダニエル 演奏活動で宮崎市以外の場所に

消防団たずねあるき

行ったりもするのですか。

高橋副団長 宮崎市民のために宮崎市内で活動することになっています。

ダニエル 市民のための音楽隊ですね。

高橋副団長 まさにそのとおりです。

九州にも消防職員による音楽隊はいくつかありまして、毎年、合同の研修会が開催されています。私たちは消防団員ですが、その研修会に参加させていただいておりまして、隊員を数名派遣しています。去年は宮崎市で開催され、各地の消防音楽隊と交流が図られ、大いに盛り上がりました。

また、音楽隊結成10周年となった一昨年には、警察、自衛隊の音楽隊と合同で演奏する機会を得ました。

ダニエル ひとつうかがいますが、この制服の色は誰が決めたのですか。

高橋副団長 音楽隊員や当時の関係者などから案を出してもらって、宮崎らしい色ということイメージして、みんなで決めました。

ダニエル カッコいいですね。

音楽隊の皆さんは一般の団員さんたちがされるような活動はしないのですか。

高橋副団長 一般の団員がする活動はしていません。でも、宮崎市の防災のために直接活動

している「消防団員をサポートする気持ちを忘れずに演奏活動しよう」といつも話し合っています。隊員はそのことを決して忘れずに活動しています。

今日は、団長を始め5名の消防団員の方にご出席いただいていますので、お一人ずつお話をうかがいましょう。

ダニエル 皆さんが消防団に入団されたきっかけを教えてください。

尾中団長 それでは、まず、私から始めましょう。

ダニエル ありがとうございます。では、団長からお願いします。

尾中団長 私の実家は農家でして、18歳の時に入団しましたが、当時は、社会人として働くようになったら消防団に入団するものだと思っていました。

私の住んでいた地域では、皆がそう思っており、後継者もたくさんおりましたので、11年勤めて一度退団しましたが、再入団して、現在、団長をしております。

ダニエル その当時は、高校を卒業して18歳で社会に出て、消防団に入団することが、成



音楽隊

消防団たずねあるき

人式のような感じだったのですかね。

尾中団長 そのとおりです。特に、農業や自営業などに就いた場合には、消防団に入団するものだというのを誰もが思っていました。

ダニエル 今でもそういう考えは残っていますか。

尾中団長 そうであれば若年者の確保も少しは楽なのですが、今の人たちは考え方が違いますので…。もちろん自主的に入団してくれる若者もいますけれども。

ダニエル 社会情勢の変化のひとつですかね。これだけの団員数がある宮崎市消防団でさえ若年者の確保は大変なのですね。

副団長はいかがですか。

高橋副団長 私は、保育園で働いておりまして、地域の皆さんに誘われて入団しました。

ダニエル 保育園児の親御さんから誘われたのですか。

高橋副団長 そうです。保護者の皆さんが誘ってくれました。保育園では、どうしても「先生」と「保護者」という関係になってしまうのですが、「仲間として一緒にやろう」と誘ってくれました。

ダニエル 地域に溶け込むことができたわけですね。

高橋副団長 そうです。30歳を過ぎてからの入団でしたが、それまで私のことを「先生」と呼んでいた方たちも、あだ名で呼んでくれるようになり、消防団では、とても人間らしい付き合いができると感じました。

ダニエル 30歳台で新入団だったのですか。

高橋副団長 そうです。私は、結婚を機に移り住んだので、その地域のことをよく知らな

ったのですが、消防団員になって本当の意味で地域の一員になることができたと感じました。

ダニエル そういう形の入団もあるのですね。オラもかつて留学生として日本に来た時に地域に溶け込む難しさを感じたことがありました。

尾中団長 いろいろな形の入団がありますが、地域の仲間から誘われて入団するという形が一番だと思います。

永峯部長にはたくさんの地域の仲間がいますから、次に彼の話聞いてください。

ダニエル それでは、永峯部長をお願いします。

永峯部長 私の場合は地元の先輩から誘われて入団しました。

私はサラリーマンでして入団したのは34歳の時で、今年で14年目になります。入団する前は飲み会が多いとか、縦社会で先輩には絶対服従で厳しい組織だというようなイメージがあったのですが、入団してみるとそんなことはなく、幅広い年代の人と打ち解けて話すことができ、公私ともにいろいろなことを教えてもらいました。同時に地元での人間関係も豊かになり、入団して本当に良かったと思っています。

ダニエル 年齢差のある人や違う職業の人と話をすることで、新しい発見があるでしょう。

永峯部長 そうですね。年齢や職業が違う人が集まっているからこそ、さまざまな話題があって話がはずみます。

ダニエル それはオラも良くわかります。山形では学校が職場だったので、どうしても先生方とばかり話すことになり、それはそれで面白いのですが、もっといろいろな人とお話し

消防団たずねあるき

いと思って、さまざまな人たちが集まっている劇団に入団したことがあります。

永峯部長 今では、自分の子どもの同級生も入団してしまして、とても楽しいです。

ダニエル そうですか。ひとつの地域をいろいろな角度から見ている人が集まっていて、いろいろな意見を聞くことができますね。

それでは次に、淡い緑色の制服がお似合いの音楽隊のお二人にお話をうかがいましょう。

安藤団員 私は中学生の時に吹奏楽部におりまして、ずっと吹奏楽を続けていたのですが、結婚を機会に離れてしまい、その後は家事や子育てなどに追われて10年ほどが過ぎてしまいました。

そんな時、どうしてももう一度吹奏楽がやりたくなくて、活動できる場所を探していたときに消防団が音楽隊員を募集していることを知り、すぐに入団を決めました。

ダニエル タイミングが良かったですね。消防団の音楽隊を選んだのはなぜですか。

安藤団員 いくつかの楽団を見学しましたが、消防団の音楽隊はアットホームな雰囲気です。若い人も多く、新鮮なイメージを感じ「ここでやろう」と思いました。

ダニエル 音楽隊はチームプレーですから、雰囲気の良さというのは重要ですよ。

安藤団員 私が入団した当時、小学校5年生だった長女も、今では音楽隊員として活動しており一緒にトランペットを吹いています。

ダニエル それは楽しいでしょうね。普通は子どもが大きくなると親子で一緒に何かをするという機会はなかなか無いですよ。

それでは、もうおひとりの方にお話しし

よう。

中野団員 私も中学時代に吹奏楽部におりましてコントラバスを担当していました。その当時、いろいろな施設へ演奏に行き、施設の利用者の方たちと触れ合うことは、とても感動的でした。ですから、音楽はずっと続けて行きたくて、福岡にある音楽の専門学校へ進みました。

福岡にいた頃に見た、難病でベッドにただ寝ているだけの人を主人公にしたノンフィクション映画の中で、患者の人たちが音楽を聞くことで反応を示すシーンがありまして、音楽には強い力があるのだと感じました。

卒業後、音楽療法士の勉強のために宮崎に戻ってきた時、たまたま消防団の音楽隊が結成されることを知り応募しました。

ダニエル そうですか、消防団音楽隊では市民のみなさんに感動と力を届けてください。

音楽隊員として活動する上で、どのような苦労がありますか。

高橋副団長 一般の団員と同じで、みんな他に生業がありますから、練習でも本番でも、いろいろと無理をして集まってもらっています。

ダニエル やはり、そこが消防団員活動の難しいところですね。職業もあり、私生活もあるわけですからね。高橋副団長は音楽隊長でもあるわけですから大変ですね。

高橋副団長 それだけやりがいもあります。また、結婚や子育てのために音楽隊を退団した場合でも、うれしいことに、ある程度落ち着くと戻ってきてくれます。

中野団員 わりとみんな早く戻ってきますよね。

ダニエル 旦那さんにお子さんを任せるわ

消防団たずねあるき

けですね。

安藤団員 家族の助けがあって活動できるわけです。

ダニエル 音楽隊の皆さんも、一般の団員さんと同じで、活動するには、やはり家族の理解と協力が必要なのですね。そして、離れてもすぐ戻ってくるということは、魅力のある活動なのですね。

皆さんのお話からは、この消防団の魅力がどんどん伝わってきました。さて、最後にこれからのことについてうかがいます。

ダニエル 今後の抱負を聞かせてください。まず、音楽隊員の中野団員からお願いします。

中野団員 そもそも消防団をPRするために結成された音楽隊ですから、いろいろなイベントで演奏することを通して、多くの人が消防団やその活動を知る機会が作れればと思います。そして、自分の子どもも含めて、若い人たちにも魅力のある消防団にしたいと思います。

ダニエル いいですね。安藤団員はいかがですか。

安藤団員 中野団員とまったく同じです。強いて付け加えるなら、何歳になっても続けたいということがあります。消防音楽隊の「名物おばあちゃん」になりたいです。もうすぐかもしれませんが。(笑)

ダニエル おばあちゃんになるには、まだまだ100年早いですよ。(笑)

次にS-KYT研修を受講された永峯部長、やる気満々だと思いますので、お願いします。

永峯部長 まず、地域住民の安心と安全の

ために消防団員として一生懸命に活動して行きたいと思います。また、防災訓練などになるべく多くの方に参加していただき、それを通して消防団の活動を皆さんにより知っていただくとともに消防団への入団を呼びかけていきたいと思っています。

ダニエル がんばってください。

次に副団長をお願いします。

高橋副団長 副団長としては、自己研鑽をして、消防団本部のひとりとして団長のお手伝いをしながら、しっかりと消防団を支えて行かなければならないと思っています。不景気でもあり、団員も含めて皆さんが大変な時代に、自分たちが地域のために何をどれだけできるのかということを考えていかなければならないと思います。

音楽隊長としては、彼女たちの力を借りて、市民により一層愛される音楽隊にして行きたいと思っています。

ダニエル 消防団本部に音楽隊に大活躍ですね。

それでは最後に尾中団長、お願いします。

尾中団長 私の使命はこの消防団をいかにまとめて活動するかということだと思っています。もともと大所帯ですし、今後もいろいろなことがあるとは思いますが、消防というのは、ひとつになって活動しなければなりません。ですから、私の抱負は、消防団全体をまとめるという一言です。

ダニエル 2千人を越える消防団員をまとめて行くことは、とても大変なことだと思いますが、がんばってください。

消防団たずねあるき

消防団員さんとの対談は、いつも楽しくて、いくら話しても話し足りない感じです。今回もあっという間に時間が来てしまいました。

質と量

何度も申し上げているように、宮崎市消防団には2千人を越える団員がいて、この3月の合併で、さらに団員が増えるということです。でも、これまでのように尾中団長のもとしっかりとまとまって活動していかれることでしょう。

尾中団長のお話にもありましたが、各分団長がしっかりと分団をまとめていて、これだけの人数を抱える組織でありながら、日々の活動が滞りなく行われているということは、すばらしいことだと思います。まさに、質と量を兼ね備えたパワフルな消防団ですね。

それから、宮崎市消防団には、対談にも参加

していただいた消防団音楽隊の他にもラッパ隊や女性分団があり、変わったところでは水上バイク隊が組織されているそうで、アイデアあふれる活気のある消防団でもあります。いつか、宮崎市消防団の全体像をご紹介しますと思います。

終わりに

何度訪ねても宮崎市はいいところです。最近はいろいろと注目を集めたこともあり、観光客の数も増えていることでしょう。ですから、地域の安心と安全を守ることは、ますます重要なことになっています。そこに2千人を超える消防団員を擁する宮崎市消防団があることは、とても心強いことです。

宮崎市消防団の皆さん、これからも宮崎市とそこに住む人々のために、がんばってください!



ダニエル氏を囲んで